

平成 27 年 5 月 20 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23242011

研究課題名(和文) パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究 オリエント美術の受容と再創造の検証

研究課題名(英文) An Art Historical Analysis of the Aims of Building the Parthenon. Reconsideration of Reception and Recreation of Oriental Art

研究代表者

長田 年弘 (OSADA, Toshihiro)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：10294472

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 23,200,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、研究代表による平成19 - 21年度基盤研究(A)「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究 アジアの視座から見たギリシア美術」の目的を継承しつつ再構築し、東方美術がパルテノン彫刻に与えた影響について再検証した。古代東方とギリシアの、民族戦争に関する美術について合同のセミナーを英国において開催し、パルテノン彫刻をめぐる閉塞的な研究状況に対して、新しい問題提起を行った。平成21年開館の、新アクロポリス美術館の彫刻群を重点的な対象とし撮影と調査を行ったほか、イランおよびフランス、ギリシャにおいて調査を実施した。研究成果を、ロンドンの大英博物館等、国内外において陳列発表した。

研究成果の概要(英文)：This research project was developed from the former one from 2007 to 2009, An Art Historical Analysis of the Aims of Building the Parthenon: Ancient Greek Art from an Asian Viewpoint, supported by the Grant-in-Aid for Scientific Research (A), intended the investigation of the influence of the ancient Orient art to the Parthenon Sculpture. The research group held a seminar in 2012 at the British Museum, London, and tried to challenge the interpretation of the temple decoration. In 2012 a systematic study in the New Acropolis Museum, including photography. In 2013 research study in the Islamic Republic of Iran, in 2014 France and Greece. The research results were displayed in the British Museum, and also in the other Japanese museums.

研究分野：美術史

キーワード：美術史 西洋史 西洋古典 考古学 ギリシア 神話 古代宗教

1. 研究開始当初の背景

(1) パルテノン神殿の装飾プログラムは、今日一般に、前5世紀前半に戦われたペルシアに対する民族戦争を暗示するものとして解釈されている。神殿はペルシアに対するギリシア世界の勝利を象徴するモニュメントと見なされ、Castriota (1992) を初め、J.M. Hurwit (2004), J. Neils et al. (2005) 等の近年の研究にも見られるように、自由と民主主義を標榜するアテナイによって、ギリシア世界に政治的メッセージが伝えられたとされる。

(2) しかし、この単純な二項対立に対しては、すでに A. Stewart (1995), J.M. Barringer (2008) 等によって説得的な批判が開始されている。とりわけ、M.C. Miller (1997) の研究は、アテナイにおける異民族観が、現実にははるかに複雑な様相を呈していたことを明らかにした。

(3) 従って、アテナイ芸術における、オリエント美術の影響のプロセス(モチーフ、物語手法、異民族図像)を組織的に、きめ細かに検証することは、パルテノン彫刻研究に新しい視野をもたらす。オリエント美術を背景にパルテノン神殿を再考察することによって、パラダイムを組み換え、研究領域を拡張しうる。

2. 研究の目的

平成 21 年開館の新アクロポリス美術館所蔵のパルテノン彫刻を対象とし、重点的な調査を完了する。併行して、前5世紀アテナイ芸術における東方美術受容のプロセスを背景としてパルテノン彫刻に関して再検証する。

(1) 古典期ギリシアにおけるペルシア文化受容の問題は、D. Castriota (2000) の他、とりわけ M.C. Miller (1997) において詳しく論じられている。アテナイにおけるペルシア文化受容に照明を与え、パルテノン装飾の個々のモチーフを再検証することで、二項対立という枠組みに新しい問題提起をする。

(2) パルテノン神殿の、とりわけ東西南北面のメトプ浮彫は、対ペルシア民族戦争の直接の暗喩と解釈されてきたが、神話物語の表現手法について再検討する。パルテノン装飾を、古代世界における孤立した作例と見なさず、オリエント世界との文化的交渉を背景に解釈する。

(3) 美術作品を社会的コンテクストにおいて考察する際に、発注者から鑑賞者に向けて発せられる「メッセージ Botchaft」という概念に換えて、近年、社会規範や価値観を含む統合的な情報として、より包括的な「コミュニケーション・システム Kommunikations-System」という概念が定着しつつある(T.

Hölscher 2000, W. Wohlmayr 2007)。自民族のアイデンティティを確立し、一方で、異民族の特徴を定型化する際に、美術作品が社会的メディアとして果たした役割について考察する。

3. 研究の方法

(1) 新アクロポリス美術館、大英博物館における調査

フリーズ西面全体と、南北面の行列図の一部、東面神々の集会図の一部石板、東西北面の摩滅・損傷したメトプ浮彫り石板、東西の破風彫刻断片を中心に調査と撮影を行った。

足場を用いて、写真、ビデオによる彫刻細部の撮影を実施。パルテノン彫刻は、研究に使用しうる、断片を含めた完備した図版、写真は存在しない。

(2) 史学班の海外調査

史学班は、調査隊がアテネ、新アクロポリス美術館において研究を進める同時期に碑文の調査を行った。

(3) パナテナイア祭礼行列の立体モデル制作
立体モデル制作班(統括 布施、中村 りい)は、東京藝術大学美術解剖学研究室において前回課題時(平成 21 年)に制作を開始しており、学会等で報告を行った。産業用クレイを用いて東面フリーズ主場面にに関して三次元モデル制作を実施。

4. 研究成果

(1) 下記の国際シンポジウムを開催した。

『古代ギリシア、ローマの祭礼と美術に関する考察』

2012 年 1 月 21 日(筑波大学芸術学系棟 B203)

「パルテノン神殿本尊 - フェイディアス作アテナ・パルテノス黄金象牙像について」Kenneth Lapatin 博士(ジャン・ポール・ゲッティ美術館)(邦訳 福本 薫 筑波大学大学院後期課程)

「中世、ルネッサンスにおけるパルテノン神殿の再発見」Marina Belozerskaya 博士(ジャン・ポール・ゲッティ美術館)(邦訳 中村 りい 東京藝術大学 非常勤講師)

司会: 長田 年弘(筑波大学 教授)

コメンテータ: 木村 浩 仏山 輝美 中村 義孝(共に筑波大学)

『古代ギリシアの祭礼と美術に関する考察』

2012 年 12 月 1 日(筑波大学芸術系棟 B203)

「パルテノン・フリーズ 贅美を尽くした捧げ物」長田 年弘(筑波大学 教授)

「パルテノン・フリーズのペプロス・シーンとペリクレスの市民権法」櫻井 万里子(東京大学 名誉教授)

「オリュンピアにおけるゼウス像の変遷」

Judith Barringer (Edinburgh 大学 教授)

(邦訳 福本 薫 筑波大学大学院博士後期課程)

司会：篠塚 千恵子（武蔵野美術大学 教授）
『古代ギリシアにおける祭祀と場の形成』
2014 年 8 月 11 日（筑波大学芸術系棟 B203）
「テセウスと「土地生え抜き」 ストア・ポ
イキレーの Marathon 合戦図を手掛かりに」齋
藤貴弘（愛媛大学 准教授）
「紀元前 4 世紀エピダウロスにおけるアスク
レピオス神のための聖なる景観の形成」
Milena Melfi（オックスフォード大学・ア
シュモレアン美術館 講師）（邦訳 小松誠 筑
波大学芸術専門学群 監修 長田年弘）
司会：長田 年弘（筑波大学）
『アテナイ、アクロポリスにおける碑文と
奉納文化の研究』
2014 年 11 月 22 日（筑波大学芸術系棟 B203）
「決議碑文の建立の場としてのアクロポリ
スの成立 ペリクレスの建築プロジェクト
と碑文文化」師尾 晶子（千葉商科大学 教
授）
「クリティオスとネシオテス 「革命的な」
芸術家？ 前 5 世紀アテナイ、アクロポリス
における奉納彫像」Gianfranco Adornato
（Scuola Normale Superiore di Pisa,
Ricercatore）
（邦訳 小松誠 筑波大学芸術専門学群 監
修 長田年弘）
司会：長田 年弘（筑波大学）

(2) 下記の研究会を開催した。
『パルテノン・フリーズ研究 ジェンキン
ズ博士を囲んで』
2011 年 7 月 6 日（東京藝術大学赤レンガ 1 号
館第 1 談話室）
「パルテノン・フリーズの騎士に見られるタ
イニアについて」中村 友代（筑波大学大学
院博士後期課程）
「パルテノン・フリーズ騎馬隊の配列につい
て」田中 咲子（南山大学 非常勤講師）
「パルテノン・フリーズの 12 神の身体イメ
ージと空間」中村 るい（東京藝術大学 非常
勤講師）（立体模型および分析図制作者：加
藤公太・栗原大樹・古川遊・村上直起）
ゲスト・コメンテータ
Ian Jenkins（The British Museum, the
Department of Greece and Rome）
司会進行 長田 年弘（筑波大学 教授）
『パルテノン神殿の造営目的に関する美術
史的研究 オリエン特美術の受容と再創造
の検証』
2012 年 6 月 30 日（筑波大学芸術系棟 B203）
「2012 年秋の大英博物館における日本の展
示について」中村 るい（東京藝術大学美術
学部 非常勤講師）
「紀元前 7 世紀アッティカにおける英雄図
像をめぐる 葬礼制度を手がかりに」福本
薫（筑波大学大学院人間総合科学研究科博士
後期課程芸術専攻）
「ギリシア彫刻にみる人体造形 美術解剖
学の視点から」布施 英利（東京藝術大学美
術学部 准教授）

司会：長田 年弘（筑波大学 教授）
コメンテータ：木村 浩 仏山 輝美 中村
義孝（共に筑波大学）
『ex oriente lux（光は東方より） 古代
ギリシアローマ美術を見つめ直す』
2013 年 9 月 29 日（筑波大学芸術系棟 B203）
「ペルシア戦争と前 5 世紀アテナイにおける
文化受容」長田 年弘（筑波大学 教授）
「シリア共和国パルミラ遺跡での日本隊の
発掘とその成果」宮下 佐江子（古代オリ
ェント博物館 研究員）
「アケメネス朝の美術 王朝様式の諸相」
田辺 勝美（元中央大学 教授）

(3) 下記の海外における研究セミナーを開催
した。

“Kolloquium zu aktuellen Forschungen,
Archäologisches Seminar am 1. März 2012,
Universität Salzburg”

2012 年 3 月 1 日（ザルツブルグ大学古典考古
学研究所、ザルツブルグ）

“On Roman Sacrificial Iconography”坂田
道生（筑波大学大学院人間総合科学研究科博
士後期課程芸術専攻）

“The Alexander Sarcophagus: Reconside-
ration of the Reliefs”中村 友代（筑波大
学大学院人間総合科学研究科博士後期課程
芸術専攻）

“In the Context of Attic Burial Customs in
the 7th. Century B. C.”福本 薫（筑波大
学大学院人間総合科学研究科博士後期課程
芸術専攻）

Guest Commentator: W. Wohlmayr, K. Sporn,
R. Claus (University of Salzburg)

“The Free Discussion on the Parthenon
Frieze”

2012 年 11 月 1 日（大英博物館、ロンドン）

“Mesopotamian Procession in the Context
of Religious Festivals”渡辺 千香子（大
阪学院大学 准教授）

“The Peplos Scene on the Parthenon Frieze
and the Perikles' Citizen Law”桜井 万里
子（東京大学 名誉教授）

Guest Commentator: Ian Jenkins
(The British Museum, the Department of
Greece and Rome)

『大英博物館パルテノン彫刻ワークショッ
プ』

2012 年 11 月 2 日（大英博物館、ロンドン）

「パルテノン・フリーズ東面女性たちの衣
装」篠塚 千恵子（武蔵野美術大学 教授）

「パルテノン・フリーズにおける基数の問
題」水田 徹（東京学芸大学 名誉教授）

「アッシリア浮彫の図像」渡辺 千香子（大
阪学院大学 准教授）

「ハルピュイアイ・モニュメントとリュキア
の石柱墓」河瀬 侑（筑波大学大学院博士前
期課程）

「パルテノン彫刻に関する近年の論文紹介」
高橋 翔（筑波大学大学院博士前期課程）・福

本 薫（筑波大学大学院博士後期課程）・山本
悠貴（筑波大学大学院博士前期課程）

『アテネ新アクロポリス美術館、ルーヴル
美術館における作例解説』

2014 年 12 月 21, 24 日

長田 年弘 金子 亨 木村 浩 田中 咲子
中村 るい 佐藤 みちる 布施 英利 師尾
晶子

(4) 海外調査と共同調査

2012 年 3 月

大英博物館において調査と撮影（長田 年弘
木村 浩 渡辺 千香子 桜井 万里子 師尾
晶子 中村 義孝 仏山 輝美 大原央聡
佐野好則）

2012 年 3 月

アテネ、新アクロポリス美術館、オリンピア
考古学博物館、デルフォイ考古学博物館にお
いて調査と撮影（長田 年弘 木村 浩 中村
義孝 仏山 輝美 大原央聡）

2012 年 10-11 月

大英博物館、新アクロポリス美術館において
調査と撮影（長田 年弘 加藤 公太 河瀬
侑 木本 諒 坂田 道生 櫻井 万里子 篠
塚 千恵子 田中 咲子 高橋 翔 中村 友
代 中村 るい 福本 薫 水田 徹 師尾
晶子 山本 悠貴 渡辺 千香子）

2012 年 12 月

京都ギリシアローマ美術館、MIHO Museum に
おいて調査（J. Barringer 教授、グラスゴー
大学 山本 悠貴）

2013 年 10-11 月

イラン共和国における調査旅行 ペルセポリ
ス遺跡、パサルガダエ遺跡、イラン国立考古
学博物館（テヘラン）において共同調査と撮
影（長田 年弘 篠塚 千恵子 金子 亨 下
野 雅史）

2014 年 12 月

アテネ新アクロポリス美術館、ルーヴル美術
館における共同調査と撮影 エピダウロス、
ミケーネ、コリントス各遺跡および考古学博
物館見学（長田 年弘 金子 亨 木村 浩
田中 咲子 中村 るい 佐藤 みちる 布施
英利 師尾 晶子）

(5) パルテノン・フリーズ東面神々の立体モ デル等 研究成果展示

“Parthenon Now” 2012 年 10 月-2013 年 4
月（大英博物館）

パルテノン彫刻室隣接の教育展示室におい
て、パルテノン・フリーズ東面神々の立体モ
デル常設展示

『The Greek Body ギリシャ美術と人体』
2013 年 1 月 22 日-2 月 17 日（藝大アートブ
ラザ）

『ギリシャ美術の教育と制作と研究』2013
年 7 月 29 日-8 月 9 日（文星芸術大学ギャラ
リー）

『ギリシャ彫刻 NEO 石膏像・模写・復元』
2015 年 2 月 28 日-5 月 10 日（新潟大学旭町

学術資料展示館）

(6) 研究グループ構成員による、期間内の研
究成果は多数にわたり、集計では少なくとも、
雑誌論文 88 件、学会発表 54 件、図書 5 件に
のぼる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 88 件)

Toshihiro Osada, Ist der Parthenon-
fries sinnbildlicher Ausdruck des
athenischen Imperialismus? in: E.
Trinkl, ed., Akten des 14.
Oesterreichischen Archaeologentages.
Phoibos Verlag; Wien, 2014, 307-314.
(査読無)

櫻井 万里子、ポリス成立前夜の社会
レラントス戦争の検証、史料から考える
世界史 20 講、査読有、2014、10、21-29

長田 年弘、「記憶」と「敬虔」の径庭
アクロポリス奉納文化におけるパルテノ
ン・フリーズ、西洋美術研究、査読無、
No. 17、2013、29-49

長田 年弘、パルテノン・フリーズ浮彫に
おける女性とメトイコイ - 「民主政賛歌」
説の批判 - 、西洋史研究、査読無、第 42
号、2013、191-205

長田 年弘、パルテノン・フリーズ 贅美
を尽くした捧げ物、藝叢、査読無、28、
筑波大学人間総合科学研究科芸術学研究
室、2013、1-10

篠塚 千恵子、気になる素描 パルテノ
ン調査余話、美史研ジャーナル、査読無、
第 9 号、2013、36-54

中村 るい、パルテノン・フリーズの神々
身体・空間・神性の顕現、東京藝術
大学美術学部紀要、査読有、51 号、2013、
75-89

長田 年弘、奉納浮彫としてのパルテノ
ン・フリーズ、西洋古典学研究、査読有、
LX、2012、25-36

Emiko Tanaka, Die Perspektive des

Parthenonfrieses. Eine Rekonstruktion der Anordnung des Reiterzugs, in: Akten des 13. Oesterreichischer Archaeologentag. Klassische und Fruehaegaeische Archaeologie. Paris-Lodron-Universitaet. Vom 25. bis 27. Februar 2010. Phoibos Verlag; Wien, 2012, 201-205. (査読無)

中村 りい、パルテノン以前の身体表現、五浦論叢 (茨城大学五浦美術文化研究所紀要)、査読有、19号、2012、25-44

師尾 晶子、古代ギリシアの碑文研究の新潮流-碑文習慣をめぐって、西洋史学、査読有、第242号、2012、57-69

Toshihiro Osada, Also Ten Tribal Units. The Grouping of Cavalry on the Parthenon North Frieze, American Journal of Archaeology, vol. 115, 2011, 537-548. (査読有)
DOI: 10.3764/aja.115.4.0537

篠塚 千恵子、パルテノン神殿東フリーズの行列の女性たちの衣装に関する一考察、武蔵野美術大学研究紀要、査読有、第41号、2011、103-118

[学会発表](計 54 件)

Toshihiro Osada, The Invisible God, in: New approaches to the temple of Zeus at Olympia. Architecture, Sculpture and Recent Technologies. 2014年5月9日、ブダペスト(ハンガリー共和国)

櫻井 万里子、Orphikoi in Classical Athens and in Derveni Papyrus, The Third Euro-Japanese Colloquium of Ancient Mediterranean World, 2014年4月27日、アテネ(ギリシャ共和国)

Akiko Moroo, Transformation and Re-Creation of Memory through the Ages: Local Pride and the Rendering of the Persian Wars - Re-reading the Themistocles Decree from Troizen, The 3rd Euro-Japanese Colloquium in Ancient Mediterranean World. 2014年4月26日、

アテネ(ギリシャ共和国)

Emiko Tanaka, Die Athletendarstellungen auf den Grabstelen spätarchaischer Zeit, 15. österreichischer Archäologentag, Innsbruck, 2014年2月28日、インスブルック(オーストリア共和国)

Rui Nakamura, Recreating the Gods of the Parthenon Frieze in Three Dimensions, The 115th Annual Meeting of the Archaeological Institute of America, 2014年1月3日、シカゴ(アメリカ合衆国)

Chikako E. Watanabe, Philological and Scientific analyses of cuneiform tablets housed in Sulaymaniyah Museum, Archaeological Research in the Kurdistan Region of Iraq and the adjacent areas. 2013年11月3日、アテネ(ギリシャ共和国)

Rui Nakamura, The reception of Parthenon sculpture in modern Japanese art studies, The Reception of Greek and Roman Culture in East Asia: Texts and Artifacts, Institutions and Practices, 2013年7月5日、ベルリン(ドイツ共和国)

篠塚 千恵子、《墓と彫刻の表象》、「彫刻と呼ばれる、隠された場所」展覧会シンポジウム、2013年5月25日、武蔵野美術大学美術館(東京都小平市)

櫻井 万里子、アテナイの宗教と政治-エレウシスの秘儀の政治的意義、歴史家協会第11回大会、2012年6月16日、立命館大学(京都府京都市)

Emiko Tanaka, Die archaischen Athletenstelen. Die Entwicklung der Bildtypen, in: 14. österreichischer Archäologentag in Graz, 2012年4月20日、グラーツ(オーストリア共和国)

Emiko Tanaka, The Arrangement of the Horsemen of the Parthenon Frieze, ワ

ークショップ「パルテノン・フリーズ研究 ジェンキンス博士を囲んで」、2011年7月6日、東京藝術大学（東京都台東区）

〔図書〕（計 5 件）

布施 英利、光文社、パリの美術館で美を学ぶ、2015、254

櫻井 万里子、岩波書店、古代ギリシア社会史研究 宗教・他者、2014、418

H.B.Mattingly, A.L.Boegehold, M. Chambers, P.J.Rhodes, G.Kavvadias, G.E.Malouchou, Akiko Moroo, B. Paarmann, A.P.Matthaiou, G.Marginesu, A.A. Themis, A.Makres, Mariko Sakurai, N. Papazarkadas, D.Sourias, S.V.Tracy, J.Davies, A.C.Scafuro, K.Clinton, G.Davis, Greek Epigraphic Society, Ἀθ ἡ ν α ῖ ω ν ἐ π ῖ σ κ ο π ο ς. Studies in honour of Harold B. Mattingly, Athens, 2014, 347(97-119, 127-135)

布施 英利、光文社、色彩がわかれば絵画がわかる、2013、220

6 . 研究組織

(1)研究代表者

長田 年弘 (OSADA, Toshihiro)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：10294472

(2)研究分担者

木村 浩 (KIMURA, Hiroshi)
筑波大学・芸術系・准教授
研究者番号：60241808

篠塚 千恵子 (SHINOZUKA, Chieko)
武蔵野美術大学・造形学部・教授
研究者番号：80279801

田中 咲子 (TANAKA, Emiko)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：00641101

水田 徹 (MIZUTA, Akira)
東京学芸大学・教育学部・名誉教授
研究者番号：30055917

金子 亨 (KANEKO, Toru)
東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：90233882

櫻井 万里子 (SAKURAI, Mariko)
東京大学・名誉教授
研究者番号：90011329

中村 るい (NAKAMURA, Rui)
高知大学・教育研究部・准教授
研究者番号：50535276

布施 英利 (FUSE, Hideto)
東京芸術大学・美術学部・准教授
研究者番号：10229081

師尾 晶子 (MOROO, Akiko)
千葉商科大学・商経学部・教授
研究者番号：10296329

渡辺 千香子 (WATANABE, Chikako)
大阪学院大学・国際学部・准教授
研究者番号：40290233

(3)連携研究者

大原 央聡 (OHARA, Hisaaki)
筑波大学・芸術系・准教授
研究者番号：80361327

中村 義孝 (NAKAMURA, Yoshitaka)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：10198252

仏山 輝美 (HOTOKEYAMA, Terumi)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：70315274

(5)研究協力者

加藤 公太 (KATO, Kota)
加藤 佑一 (KATO, Yuichi)
河瀬 侑 (KAWASE, Yuki)
木本 諒 (KIMOTO, Ryo)
小石 絵美 (KOISHI, Emi)
坂田 道生 (SAKATA, Michio)
下野 雅史 (SHIMONO, Masafumi)
高橋 翔 (TAKAHASHI, Sho)
塚本 理恵子 (TSUKAMOTO, Rieko)
佐藤 みちる (SATO, Michiru)
中村 友代 (NAKAMURA, Tomoyo)
福本 薫 (FUKUMOTO, Kaori)
森園 敦 (MORIZONO, Atsushi)
山本 悠貴 (YAMAMOTO, Yuki)